

MCCスポーツpresents
2022年度 第71回
全日本大学サッカー選手権大会

～大会を終えて～

田口 新(吉備国際大学)

MENU

- ・今大会の学生審判員の起用について
- ・試合について
- ・まとめ



今大会の学生審判員の起用について

今大会の開幕に先駆けてオンライン記者会見が行われ、記者会見内で学生審判員が主審を担当することが発表されました。

インカレはこれまで日本サッカー協会派遣の審判員が担当していたが、今大会からは一部試合で大学生の学生審判員が主審を担当することも併せて発表があった。選手育成だけでなく、審判も積極登用することで育成していく方針だ。

(ゲキサカ <https://web.gekisaka.jp/news/incolle/detail/?374626-374626-fl> より抜粋)

3月に行われたデンソーカップと11月に行われたリーグ全国大会に参加した審判員の中で、全日本学連より選出された学生審判員が1回戦と2回戦の主審を担当しました。

試合について

鹿屋体育大学vs静岡産業大学(主審)



・良かった点

- ①争点に近づく運動量→対角線にとらわれず、必要な争点に近づいて監視した。
- ②選手との協力関係→キープレイヤーを見つけ、信頼関係を築き、コントロールに繋がった。
- ③パーソナリティ(毅然さ)→表情や選手との距離感を意識し、冷静かつ毅然さをもってコントロールに繋がった。

・改善点

- ①判定→フォーカスするポイント、ボールの優先権を整理できていないときがあった。
- ②リーダーシップ→公平公正さのあるゲーム運営の追求(遅延行為の早めの気づき、選手同士の対立関係など)
- ③予期予測→遅攻速攻に対する自分のフィット感(なにがどこで起きそうか、その重大さの理解度)

まとめ

まずはこのような素晴らしい大会に参加させていただけたことに感謝しています。そしてこの大会に出場されたIPU・環太平洋大学の皆さん、広島大学の皆さん、本当におつかれさまでした。

本来ならばリーグ全国大会が学生生活最後の審判活動となるはずでしたが、インカレにも割り当てていただくことができ貴重な時間を過ごすことができました。

私の試合終了の笛に対しての喜びを表現する選手、うつむき涙を流す選手。あの対照的な光景を今後も忘れることはありません。試合を委ねられた者としての責任や自覚を改めて感じました。

これらを「良い経験だった」だけで済ませるのではなく、大会を通じて感じたことやもっと成長しなければならぬ部分に対してしっかりフォーカスし、今後の担当していく試合をより良いものにすべく、日々を大切にしたいと思います。

3月のデンソーカップは他の学生審判員が活躍し、有益な情報を中国地域に持ち帰ってくれると思います。今後の中国学連審判部の発展を心より応援しています。

私の大学サッカー ～完～

